

## 本時のねらい

- ・藤原道長のくらしぶりや政略を読み取り、貴族のくらしについて理解することができる。
- ・藤原道長のくらしぶりや政略について調べたことをまとめて表現することができる。

## 本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

- ・発表ノートに、活用する思考ツールと複数の資料をまとめておくことで、スムーズに学習活動を行うことができる。
- ・思考ツールに整理したことをスクリーンにうつすことで、全体で瞬時に共有することができる。

## 活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・教科書
- ・資料集
- ・スクリーン
- ・タブレット

## 本時の展開

| 学習の流れ       | 主な学習活動と内容  | ICT活用のポイント・工夫   |
|-------------|--|---|
| 導入<br>(5分)  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○前時の学習をふり返る。</li> <li>・貴族がぜいたくな暮らしをしていたことを確認する。</li> <li>○本時のめあてを確認する。<br/>めあて：「藤原道長はどんな人物か予想しよう」</li> </ul>  |   |
| 展開<br>(35分) | <ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書や資料集（発表ノートに添付）をもとに藤原道長について調べる。（思考ツール：クラゲチャート）<br/>【写真1】</li> <li>・発見したことだけでなく、疑問や予想についても書く。</li> <li>○ペアで伝え合う。 【写真2】</li> <li>・発表ノートをコピーしておき、友だちの意見を聞いて、変更があれば追加・訂正する。</li> <li>○全体で、クラゲチャートを確認し、クラゲチャートをもとに藤原道長について、まとめる。 【写真3】</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表ノートを使って、藤原道長について思考ツールに整理する際、発見したこと、疑問に思うことを色分けすることで、発見と疑問を視覚的にわかりやすくすることができる。</li> <li>・交流する前に思考ツールをコピーしておくことで、思考の変化を読み取ることができる。</li> <li>・スクリーンで全員の思考ツールを確認することで、藤原道長について、より多面的に理解することができる。</li> </ul> |
| まとめ<br>(5分) | <ul style="list-style-type: none"> <li>○藤原道長についてわかったことをノートにまとめる。</li> </ul>  |   |

## 1人1台端末を活用した活動の様子



写真1 資料から読み取ったことを思考ツールにまとめている場面



写真2 タブレットを見せ合いながら、ペアで交流している場面



写真3 全体で共有している場面

## 児童生徒の反応や変容

これまでの授業の振り返りによると、社会科は覚える教科と感じている児童もいた。しかし、本単元で導入した思考ツールの活用により、考えたり、疑問に感じたり、予想したり、調べたりする活動を整理しながら学びを進めることで、社会科は知識を覚えるだけでなく、覚えた知識を活用して考えを深めることが大切であることに気づいたという意見が増えた。

## 授業者の声～参考にしてほしいポイント～

本単元を通して、社会科と思考ツールの相性が良いことがわかった。思考ツールを使うことで時代の比較や歴史人物の整理などができる。また、その整理された思考ツールを活用することで、発表のための原稿を準備することなく、思考ツールを見ながら、自分の言葉で考えをまとめながら、伝えることもできる。思考ツールは多種多様なツールがあり、どのツールを選択するかで、効果も大きく変わるため、学習内容にあったツール選びはとても重要であると感じた。